

ゴム練りに始まり，ゴム練りに終る，ゴム品質

第237回ゴム技術シンポジウム

『ゴム練りの基礎から実践へ I ～練りの原点に戻る～』

主催：一般社団法人日本ゴム協会 研究部会・ゴム練り研究分科会

協賛：高分子学会，日本化学会，日本合成樹脂技術協会，日本材料学会，プラスチック成形加工学会（予定・順不同）

今回のゴム練りシンポジウムは、『ゴム練りの原点に戻る』をテーマに，今一度，ゴム練り技術の基礎，メカニズム，練り挙動の本質を見直し，更に，各種ポリマー別のゴム練りの実践技術に繋げて講義したいと考えております。ゴム練り技術，ゴム練り現場にて日々，ご苦労されている研究者，現場技術者をはじめ，ゴム練り技術に興味のある方々，また，ゴム練りで困りごとを持っている方々の御参加をお待ちしております。

日時：2017年9月28日（木） 10時25分～16時40分

29日（金） 9時40分～16時45分

場所：東京電業会館 地下ホール（東京都港区元赤坂1-7-8）

受講料：日本ゴム協会会員 協賛団体会員29,160円 日本ゴム協会学生会員 5,400円

※受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも，ご所属の会社が法人としてゴム協会会員（賛助会員）の場合は2名様まで会員扱いの受講料で受付けます。

シニア制度対象会員 14,580円（60歳以上の正会員）会員外 37,800円

申込方法：弊会ホームページ<http://www.srij.or.jp/>よりお申込みください。（定員80名）

送金方法：銀行振込（三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会）。振込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。

問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会 第237回ゴム技術シンポジウム係

（〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階

TEL 03 (3401) 2957 FAX 03 (3401) 4143 E-mail : okada@srij.or.jp)

	演 題	講 師・座 長
9月28日（木）		
10：25～10：30	開会のあいさつ	ゴム練り研究分科会 主査 藤 道治 【座長】久留米工業高等専門学校名誉教授 藤 道治
10：30～11：20	「ゴム練りは，製品品質の要です」 ゴム練り加工の原点は，19世紀前半。この頃の開発者の考えをひも解き，以降200年以上も経過した現在にも残る，重要課題について考察したい。	浜田技術士事務所 濱田 裕氏
11：30～12：30	「ゴム練りのメカニズム」 ゴム練りの基本的な役割とその重要性について，混練機内のゴム練り現象および混練メカニズムの観点から解説する。	日本スピンドル製造(株) 岡本 浩二氏 【座長】日本スピンドル製造(株) 岡本 浩二 株)エスティア 橋爪 慎治氏
13：20～14：20	「天然ゴムの初期混練挙動」 混練初期のNRの特異な固体挙動を解明し，最終物性に影響する現象を解析する。	
14：30～15：30	「オープンロールの練り挙動（動画）と混練」	（一財）化学物質評価研究機構 隠塚 裕之氏
15：40～16：40	「ゴム練り機のクリアランスと練り挙動」 ローター先端と槽内壁面とのチップクリアランス，ロール間やローター間のクリアランスと練り挙動の関係を考察する。	久留米工業高等専門学校名誉教授 藤 道治氏
9月29日（金）		
9：40～10：40	「加硫系配合剤の練りと分散」	【座長】(株)明治ゴム化成 関口 晃司 三新化学工業(株) 立畠 達夫氏
10：50～11：50	「EPDM材料の混練り特性」 EPDM系ゴム材料の練りの特徴や上手く練るための注意点に関して，出来るだけ実例に基づいた解説を行う。	鬼怒川ゴム工業(株) 小葉 次郎氏 【座長】入間川ゴム(株) 高山 正人 株)コウヤク 日下 謙二氏
12：40～13：40	「CR練り方法とゴム全般の加工性指標」 CR混練時の注意点とゴム全般に関する未加硫ゴムの加工性指標に関して活用実例を交えて一考察を行う。	
13：50～14：50	「特殊ゴムの練りの要点」 ニトリルゴム，水素化ニトリルゴム，アクリルゴム，フッソゴムなどの混練の機種選定，最適手順，練りの評価について解説する。	元・NOK(株) 平松二三男氏
15：05～16：40	講師による総合質疑	【司会】(株)フコク 鰐淵 隆
16：40～16：45	閉会のあいさつ	ゴム練り研究分科会 副主査 鰐淵 隆

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆お申込みはホームページ<http://www.srij.or.jp/>からお願いします。